

## 活動報告

## 第10回アジア太平洋地域エイズ国際会議参加報告

藤部 荒術

特定非営利活動法人動くゲイとレズビ안의会, 東京

**目的:** 2011年8月26日から30日まで大韓民国・釜山において開催された第10回アジア太平洋地域エイズ国際会議(以下, ICAAP)での参加経験を報告し, 国内でのゲイ/MSM向けの当該活動に還元する。

**対象および方法:** ICAAPにおいて行った2本の口頭演題発表に加え, 会議中に収集したゲイ/MSMコミュニティを取り巻く環境を反映したHIV/エイズ予防介入プログラムなどの具体的実践や新しい概念を報告する。

**結果:** 口頭演題セッションでの発表時のフィードバック, 他のセッションでのフィリピン, タイからのゲイ/MSMを対象とした研究の発表, さらに今回新しく紹介されたSyndemicという概念を通して, 国内のゲイ/MSMのHIV/エイズ予防介入の実践において, より包括的かつ構造的なアプローチの重要性が明らかになった。

**結論:** ゲイ/MSMを対象とした取組みを行うと同時に, その他のHIV/エイズの活動を連携させた事業のパッケージ化, 事業主体間の連携, 事業のデザインに必要な社会的情報の整備といったことを進めていくことも, 今後の課題としてとらえることができる。

**キーワード:** MSM, NGO, コミュニティ, シンデミック

日本エイズ学会誌 14: 159-162, 2012

去る2011年8月26日から30日まで, 大韓民国・釜山において開催された第10回アジア太平洋地域エイズ国際会議(以下, ICAAP)に参加した。アジア太平洋地域など65カ国から2,998名を集めた(韓国からの参加: 1,346名, 他国からの参加: 1,652名)この会議では, 1,343本の抄録による発表を軸に, 科学, 臨床, コミュニティ, 政治, 企業などの分野からの参加者による研究発表や活動発表が行われた<sup>1)</sup>。

## 1. 参加目的

わたしの会議参加の第一の目的は, 口頭演題での発表を行い日本での実践を発信すると同時に, 他の都市での活動の経験を共有するということであった。8月27日には, HIV検査事業における行政-NPO連携, MSM向けHIV/エイズ施策における行政-NPO-研究者の三者連携についての発表“Do Local Governments in Japan Work in Cooperation with NGOs, and Work for Vulnerable Populations?”を, 8月29日には, ゲイ/MSMを対象としたHIV予防介入プログラムの実践についての発表“Creating Behavior Change through Workshop for MSM: LIFEGUARD”を行った。第二の目的は, ゲイ/MSMコミュニティを取り巻く環境を反映

して実施されている各国の独自のHIV/エイズ予防介入プログラムなどの具体的実践や手法を収集し, 国内の活動に還元することであった。

## 2. ゲイ/MSMへのエイズ対策の焦点化

アジア太平洋の地域において, ゲイあるいは「MSM(男性と性接触を持つ男性たち)」は, HIV/エイズに大きな影響を受けつつも, 予防情報や検査・医療へのアクセスが促進されるべき存在として省みられていない層であり, 多くの場合, まったく無視されてきた経緯がある。しかし近年, 世界のその他の多くの地域と同様に, 重点的に対策を行う対象層として認識されつつある。

本会議において, ゲイ/MSMも他の人口集団とともに“Key Affected Population”(HIV/エイズの影響を受ける主要集団)という呼称<sup>2)</sup>で呼ばれ, 対策に焦点を当てることの重要性が強調されていたのが印象に残った。開会式では, 本会議に先立って開催された「コミュニティ・フォーラム」からの報告もあり, HIV感染者・MSM・セックスワーカー・移住労働者・薬物使用者・女性・ユース(青少年)といった, これまで「Vulnerable Populations(脆弱な立場に置かれた人口層)」と呼ばれていたコミュニティの人々が, 「Key Affected Populations」という自らの呼称を再構築し, 当事者を主体として対策に関わっていく姿勢が明確に表現されていた<sup>3)</sup>。

また, 会議開催期間を通して, ゲイ/MSMに対するス

著者連絡先: 藤部荒術(〒164-0012 東京都中野区本町6-12-11 特定非営利活動法人動くゲイとレズビ안의会, 東京)

2012年1月13日受付; 2012年4月13日受理

ティグマや差別が感染の拡大を引き起こしており、これまで無視されてきたゲイ/MSM に対する組織的でさらに拡大・深化した介入実践が必要である、というメッセージがこれまで以上に繰り返されていた。今回、10 回目の ICAAP で初めてゲイ/MSM をテーマにしたプレナリーセッション<sup>4)</sup> が開催されるなど、アジア太平洋地域のエイズ会議がゲイ/MSM への対策が重点を置くべきものになってきている、という変化を確認できる機会にもなった。

### 3. 日本国内におけるゲイ/MSM 向けの HIV/エイズ 予防介入プログラムについての口頭演題発表

8 月 29 日には、“Engaging Communities not Condoms” という口頭演題セッション (MoOE16) において、日本国内のゲイ/MSM を対象としたゲイバーでの HIV/エイズ 予防介入ワークショップ『ライフガード』の実践について発表を行った〔(演題名は、“Creating Behavior Change through Workshop for MSM : LIFEGUARD” (MoOE16-02))〕。発表では、2001 年から 2011 年までの 10 年間、国内各地のゲイバーで毎年開催してきた『ライフガード』の独自性や工夫点、プログラム構成上の基盤となるコンセプト、IEC (Information Education Communication) 資料として開発した予防啓発のためのイラストや写真を交えながら、プログラムの運営面に焦点を当てて発表を行った。

発表を受けて、シンガポールや香港、韓国など、先進アジア諸国 (Developed Asia) でゲイ/MSM のための活動に従事している行政の担当者や NGO ワーカーたちとの意見交換の機会を得た。このような国際会議での発表の場が、国内での実践の機会と、他国でのフィールド活動における経験との共通点や違いを引き合わせ、互いの仕事の意味を確認しあうといったネットワークングの機会でもあることを改めて認識することができた。

### 4. 日本国内の行政— NGO 連携調査研究についての口頭演題発表

また、8 月 27 日には、“Where There is the Political Will, There is the Way !” という口頭演題セッション (SaOD07) において、“Do Local Governments in Japan Work in Cooperation with NGOs, and Work for Vulnerable Populations ?” (SaOD07-05) という演題名で、日本全国の地方公共団体のエイズ施策における NGO 連携と個別施策層対策の推進と課題に関する研究について発表を行った。セッションでは、タイやインド、インドネシアなどのエイズ施策の異なる国からの発表者とディスカッションを行った。行政と NGO との協働や連携を含む日本のエイズ施策のシステムと、他国のそれらを共有し意見交換をする貴重な機会となった。また、セッションにおける各発表はいずれも、さ

まざまなステークホルダー (当事者) 間の新しい連携の取り組みや、今後どのように事業の規模を拡大していけばよいのか、といった諸課題について報告しており、比較検討を行っていくうえで示唆に富むものであった。

### 5. アジア太平洋地域のゲイ/MSM 対象の予防介入プログラムについて

アジア太平洋地域のゲイ/MSM コミュニティでの予防啓発理論の手法、実践事例を、国内で開催するゲイ男性向け HIV/エイズ 予防介入プログラムの企画立案・実施に還元するため、口頭演題セッション、ポスター発表のチェックを行った。参考になったものを以下に紹介する。

“Do We Really Know These Guys ?” という口頭演題セッション (MoOE09) において、フィリピン、タイ、スリランカ、カンボジアなどで同性間性的接触を通じての感染が上昇していることの背景や要因を指摘する研究が発表された。フィリピンの Mikael Navarro 氏の発表 “Who Will Take a Bakla Seriously ? : HIV Risk of Filipino MSM and Transgender Persons as a Function of Gender and Sexuality Values” (MoOE09-01) では、同性間の性行為に関して当事者たちのリスク行為に影響する諸要因 (マチズモ：男性優位主義など) が紹介された。発表によると、たとえば、フィリピンのゲイ/MSM の間でのコンドームなしのセックスは、パートナーとの間の『最上の親密さ』の表現であり、不特定の相手とのコンドームなしのセックスは、『征服としてのセックス』となり、フィリピンのゲイ/MSM のリスク行動においても、マチズモ文化の影響が見られるという指摘がなされた。また、タイの研究者 Patomphong Khamvisat 氏の発表 “Behaviours Related to HIV Infection in MSM in Patong, Phuket Province during 2008-2010” (MoOE09-02) では、HIV/STD クリニックを訪れたゲイ/MSM、トランスジェンダーおよび MSW への疫学的調査が報告され、カンボジアの研究者 Sodara Chan 氏の発表 “MSM Health Services Integrated in the Sexual Reproductive Health Clinics” (MoOE09-06) では、一般層向けの保健所がゲイ/MSM でも検査・治療を受けやすくする試みが報告された。

いずれの発表も、感染リスクの知識を持っていても感染のリスク行動が生じるその背景や (ゲイ) アイデンティティの持ち方など、日本国内のゲイ/MSM の予防介入実践において、より包括的かつ構造的な方法を目指すうえで、参考となる多くの示唆を得た。

### 6. 構造的なアプローチから学ぶこと

最後に、視野を広げ、また、今後の課題を考えるうえでも役立つ概念を学べたことについても触れて締めくくりたいと思う。

8月29日のプレナリーセッション“Prevention in the Rapidly Changing MSM Communities of Today”では、タイの研究者 Frits van Griensven 氏が「Syndemic（特定の集団において、相乗的に相互作用を生み、疾病の負担を過剰にさせてしまう二つ以上の疾病や苦難のことを指す。1990年代に医療人類学者の Merrill Singer が提唱した概念）」という概念にもとづいたエイズへの取組みの必要性を唱えた<sup>5)</sup>。これは、バンコクのMSMのコホート調査におけるHIV感染リスクと他の種々の問題（社会的孤立、自殺企図、薬物使用、性行為の強要など）との相関を示し、心理的社会的な健康状態に対し着目するものであった。

“Syndemic”という概念を演繹して解釈するならば、エイズ分野での研究や活動において、より構造的なアプローチを求めるものである。その点において、エイズ施策に関して、HIV予防だけでなく、精神的支援や法的支援といった多角的なサポートを実施するNPOの存在の必要性を改めて確認できる新しいコンセプトであるといえる。

個人的な解釈でもあるが、先にも述べたゲイ/MSM向けの予防介入プログラム『ライフガード』の実施に加え、地方行政との連携によるHIV検査サービスの提供、陽性者へのサポート、電話相談や法律相談などのソーシャルサービス、人権分野でのアドボカシー活動など、HIV陽性者および同性愛者を対象として多角的に実施してきた、自身のNPOでの活動の意義を確認することもできた。また、ゲイ/MSMを対象とした取組みだけでなく、その他のHIV/エイズの活動（HIV/STI予防情報の提供、HIV検査、治療サービスなど）を連係させた事業のパッケージ化、事業主体間の連携、事業のデザインに必要な社会的情報の整

備といったことを進めていくことも、これからの具体的な課題として考えることができた。

これらの参加経験を、2013年にバンコクで開催される第11回ICAAPまでに、自身の研究や活動に地道に還元していき、微力ながらエイズの施策に役に立てられるよう取組みを継続していきたいと思えるICAAPであった。

## 注

- 1) 参加者数、および、発表数の数字は、会議最終日の閉会式においてローカル組織委員会から発表された数字による。
- 2) Key Affected Population に似た考え方として、日本のエイズ政策における「個別施策層」がある。日本においてMSMは、「同性愛者等」として、「後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針」のなかで「個別施策」の一つに含まれている。「同性愛者等」のほか、「外国人」「青少年」「性風俗産業従事者」の4つの集団が、文化的・制度的な問題や、差別やステイグマによって正確な情報の入手や保健医療サービスへのアクセスが困難なためHIV/エイズの影響を受けやすい層として、個別施策層として定義されている。
- 3) 開会式において、コミュニティ・フォーラムで、Key Affected Populationsの集団ごとに分科会が行われ、おもに(1)予防とケアへのアクセス、(2)予防としての治療、(3)人権と社会保障といったことが議論された、という報告があった。
- 4) “Prevention in the Rapidly Changing MSM Communities of Today” 2011年8月29日のプレナリーセッション (MoPS4)。
- 5) 8月29日のプレナリーセッション「Prevention in the Rapidly Changing MSM Communities of Today」(MoPS4)では、Frits van Griensven (アメリカCDC・タイ保健省)による“A Syndemic Approach to Understand and Address the Continuing Spread of HIV Infection among Men Who Have Sex with Men and Transgenders in Asia and the Pacific” (MoPS4-02)。

## Participation Report of the 10th ICAAP (International Congress on AIDS in Asia and the Pacific)

Arashi FUJIBE

OCCUR, Tokyo

**Objectives** : This aims to contribute to relevant programs for gay/MSM in Japan by sharing author's experiences of participating in the 10th ICAAP (International Congress on AIDS in Asia and the Pacific) held on August 26-30, 2011 in Busan, Korea.

**Materials and Methods** : This reports information about practices of HIV/AIDS prevention intervention program based on circumstances of each gay/MSM community and new concept shared at the Congress, as well as author's two oral presentations.

**Results** : Importance of comprehensive and structural approach was found for practices of HIV/AIDS prevention intervention for gay/MSM in Japan, by learning feedback for author's presentations, other gay/MSM research presentations from Philippines and Thailand, and concept of 'Syndemic' newly introduced.

**Conclusion** : It is possible to consider future challenges of promoting comprehensive packaging of HIV/AIDS programs, collaboration between different sectors, and improvement of social information for designing programs, as well as providing programs for gay/MSM.

**Key words** : MSM, NGO, community, syndemic